# 原発直下に断層は存在する　さらに慎重な評価をすべき
## 田中はじめ市議代表質問③

田中はじめ市議は2月定例市議会での代表質問で、原発の耐震重要施設の設置について、原子力規制委員会「実用発電用原子炉に係る新規制基準について」で「『将来活動する可能性のある断層等』の露頭がないことを確認した地盤に設置する」とされ、「将来活動する可能性のある断層等」は「後期更新世（約12～13万年前）の活動が否定できないもの」とされていると指摘し、「原子力規制庁の2号炉審査概要には、原子炉建物直下に、「シーム（地層の境界面に平行な断層）」の記載がある。つまり、原子炉直下に断層が存在している。しかも過去1000万年動いていないシームは原子炉から離れており、原子炉直下のシームの記述はない。これでは安全神話の復活ではないか。2号炉直下のシームの活動性評価や被害評価はあるか」と質しました。

原発直下の断層について
質す田中市議会議員

これに対し、上定市長は、「シームの活動性評価については、2号炉設置変更許可申請の審査で、耐震重要施設の地盤にある21条のシーム全てが同様の成因で形成され、内、最も連続性の高いB23シームについて将来活動する可能性のあるシームには該当せず、2号炉直下のシームについても同様に評価されており、シームの活動による被害想定は行われていない」と答えました。

# 原子力災害避難計画～市民団体の意識調査について
## 舟木けんじ市議一般質問③

舟木けんじ市議は2月議会一般質問で、原子力災害避難計画に関わる市民団体が実施した意識調査についてとりあげました。

意識調査の受け止めを資す
舟木けんじ市議会議員

「市民団体が市内586の団体に対して行った『避難計画と島根原発2号機に関する調査』では、原発事故発生時の対応について、『十分対応可能』『不十分だが対応可能』が38・2％、『対応不可能』41・6％。広域避難計画について、『十分対応可能』『不十分だが対応可能』が25・8％、『対応不可能』が59・6％。避難先での生活について、『十分対応可能』『不十分だが対応可能』が15・7％、『対応不可能』が69・7％」「いくら国が了承し、市が最善の計画だと言っても、市民の多くは大きな不安を感じているという事が明らかに」「市長としての受けとめは」と質しました。

永田明夫防災安全部長は、「学校、幼稚園、保育所、医療機関、社会福祉施設などのマニュアルは県と連携しガイドラインを作成し、各施設でのマニュアル作成していただいた」「毎年実施する原子力防災訓練でマニュアルを再確認していただく」「今後もこうした取り組みを継続することで更なる理解促進に取り組むとともに、訓練や研修の機会に行うアンケートも活用し、丁寧にご意見を伺っていく」と答弁しました。

# コロナ禍・子ども食堂の積極的支援を
## たちばなふみ市議一般質問③

たちばなふみ市議は2月議会で①島根原発②コロナ禍の保育の確保について③子ども食堂④学校制服⑤中海について一般質問しました。③について報告します。

行政の支援を求める
たちばなふみ市議会議員

たちばな市議は「子ども食堂は、子どもの食育や居場所づくりにとどまらず、高齢者や障がい者を含む地域住民の交流拠点に発展している。コロナ禍でその存在意義が注目され、国の交付金の補助率も上がるなど国も必要性を認めている」と指摘。「鳥取県では公民館の使用料を無料に、食材の保管場所を提供、地域食堂相談支援員の創設、またソーシャルワーカーを子ども食堂に派遣し困りごとのある人を支援につなげている」と行政がバックアップすることで地域の力を掘り起こし、発展していると紹介しました。

松江市でも積極的に支援を行うべきとし、①松江市での子ども食堂の現状や数値目標、②松江市でつかんだ支援のニーズ、③公民館の使用料について補助、食材の保管について場所や冷蔵庫等の援助、事業の運転資金、補助金や交付金を活用することが必要だと質しました。

林忠典子育て部長は「市の社協が「子ども食堂交流会」を開くなど団体間の交流を行っている。助成は市社協や県共同募金会が制度を設けている。開設の相談は助成金制度の情報提供を行い県・市社協につなぐなど寄り添った支援を行っていく」と答弁しました。

行政の積極的な支援が求められます。

# 参院選で躍進を　共産党島根県委員会が県党会議を開催

県委員会を代表し挨拶する上代県委員長

日本共産党島根県委員会は、3月19日、大田市で第88回県党会議を開催しました。会議では、にひそうへい前参院議員を含む比例5議席を必ず獲得し、参院鳥取・島根選挙区での勝利で、党創立100周年を迎えることをめざす「総合計画」を採択しました。

にひ候補はオンラインで、11年ぶりに隠岐の島町を訪れたことに触れて「新自由主義の弊害は地域で限界を超え、社会保障削減や消費税増税への怒りが広がっている」と述べ、「皆さんと一緒に前進を切り開き、今度こそ比例と選挙区で勝利を勝ち取ろう」と呼びかけました。

福住ひでゆき参院鳥取・島根選挙区予定候補もかけつけ決意表明しました。

新たな県委員が選出され、▽県委員長に上代善雄（67）＝再▽副委員長に尾村利成・県議（59）＝再、大国陽介・県議（42）＝新の2名が、▽常任委員に岩田剛・東部地区委員長（41）、遠藤秀和（44）、＝以上再、たちばなふみ・松江市議（45）、中島江利子（53）、吉井安見・中部地区委員長・出雲市議（34）＝以上新、が就任しました。